



さあ、答え合わせをしよう！

Vol.91 お宝ベスト5～東京都(とうきょうと)

※ココを見てね! ▶ 東京都～「お宝ベスト5」

1. 狛江亀塚古墳からみつかった銅鏡(とうきょう)は、どんな墓の副葬品(ふくそうひん)だったでしょうか？

正解:②帆立貝形古墳(ほたてがいがたこふん)

東京都(とうきょうと)の狛江市元和泉(こまえしもといずみ)にある狛江古墳群(こまえこふんぐん)の一つに、亀塚古墳(かめづかこふん)があります。墓(はか)の形(かたち)は、帆立貝形古墳(ほたてがいがたこふん)。正解は②です。前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)に比(くら)べると、前方部(ぜんぽうぶ)がとても短(みじ)かいのが特徴(とくちょう)です。円丘(えんきゅう)に小さな方形(ほうけい)の張(は)り出(だ)しがあり、全体の平たい部分が帆立貝(ほたてがい)に似(に)ていることからこのように呼ばれています。四隅突出型墳丘墓(よすみとっしゅつがたふんきゅうぼ)は、弥生時代中期以降(やよいじだいちゅうきこう)、中国地方(ちゅうごくちほう)・山陰(さんいんちほう)・北陸地方(ほくりくちほう)だけでみられます。方形墳丘墓(ほうけいふんきゅうぼ)の四隅(よすみ)がヒトデのように飛(と)び出した特異(とくい)な形の墳丘墓(ふんきゅうぼ)です。

2. 国の重要文化財に指定された下布田遺跡で出土した、土で作った耳かざりは全体的にある色が塗られていました。何色かな？

正解:③赤(あか)

答えは「お宝ベスト5」2つ目を読むとわかりますね。正解は、③赤(あか)です。下布田遺跡(しもふだいせき)からは、縄文土器(じょうもんどき)のほか、土偶(どぐう)・土版(どばん)・耳飾(みみかざり)・土製勾玉(どせいまがたま)等の土製品(どせいひん)、石棒(せきぼう)・石剣(せっけん)・独鈷石(どっこいし)等の石製品(いしせいひん)といった、まつりや儀式(ぎしき)につかわれたであろうものが大量(たいりょう)に出土(しゅつど)し、南関東(みなみかんと)では数少ない縄文時代晩期(じょうもんじだいわんき)の遺跡(いせき)として知られるようになりました。なかでも、この土で作った耳かざりは、紅(べに)バラの大輪(たいりん)のようなデザインを丹塗(にぬ)りされ、鮮(あざ)やかな赤彩(せきさい)がほどこされています。デザインや質感(しつかん)がとても似(に)ていることから、群馬県(ぐんまけん)の千網谷戸遺跡(ちあみがいどいせき)で製作(せいさく)されたものが、下布田遺跡(しもふだいせき)にもたらされたものだと考(かんが)えられています。

3. 多摩ニュータウンNo.471 遺跡でみつかった土偶(どぐう)の顔は、何色に塗(ぬ)られていましたか？

正解:②白(しろ)

多摩(たま)ニュータウンは、東京都(とうきょうと)西南部(せいなんぶ)、多摩市(たまし)、八王子市(はちおうじし)、町田市(まちだし)、稲城市(いなぎし)にまたがる丘陵地(きゅうりょうち)です。昭和40年代に全国最大級(さいだいきゅう)の市街地計画(しがいちけいかく)がなされ、現在(げんざい)も22万人が暮(く)らしています。開発時(かいはつじ)、このエリアから964ヶ所の遺跡(いせき)が見つかり、旧石器時代(きゅうせつきじだい)から近世(きんせい)まで、さまざまな時代の遺構(いこう)や遺物(いぶつ)が発見(はっけん)されました。土偶(どぐう)もその一つです。正解は、②白(しろ)。入れ墨(いれずみ)を表現(ひょうげん)したものではないかと言われています。多摩ニュータウンの遺跡(いせき)で発見(はっけん)された数々の出土品(しゅつどひん)は、東京都埋蔵文化財センターの常設展(じょうせつてん)で見ることができます。